

平成30年度 家庭教育支援活動一覧

○事業実施市町および取組教育支援活動

8市町16活動

	市町名	地域人材の養成	家庭教育支援チームの設置・活動	家庭教育を支援する取組の展開	連絡会議・ケース会議	保護者への情報提供
1	近江八幡市	○	○	○		
2	草津市			○		
3	栗東市			○		
4	甲賀市	○	○	○		
5	湖南市		○	○		
6	高島市	○	○	○		
7	日野町	○		○		
8	竜王町			○	○	○

○教育支援活動の内容

【地域人材の養成】

	市町名	講座数	習得を期待する能力	養成後の活動の場
1	近江八幡市	3	・より客觀性を持った視点で現状を見る ・関係機関との連携、人材の紹介、発掘 ・研修などの企画、提案	・学校や地域施設において保護者交流や研修会等の企画 ・関係機関の情報をアドバイス
2	甲賀市	5	・手遊びや絵本読み聞かせ等のスキル ・ボランティアとしての意識向上・心構え ・子育てサポーターとしての基礎知識	・ブックスタート、園での読み聞かせ ・子育て広場等の後方支援
3	高島市	1	・家庭環境の多様化や地域社会の変化への対応	・子育て支援者や地域の民生委員・児童委員として活動
4	日野町	5	・子どもの発達や遊びについての知識 ・親子に寄り添い、子育てや家庭教育について相談に応じるための力	・親子ぶれすて、つどいの広場、子育てサロン等、親子が集う場所での支援

【支援チームの設置・活動】

	市町名	人数	年間活動日数	主な活動内容		
				学習機会の提供・コーディネート	サロン・相談対応	家庭訪問による支援
1	近江八幡市	9	221(延べ)	○	○	○
2	甲賀市	10	20(延べ)	○		
3	湖南市	5	235(延べ)	○	○	○
4	高島市	15	105(延べ)	○	○	

【支援する取組の展開】

	市町名	実施小学校区数	開催回数	活用する行事等の機会※1	講座の概要※2
1	近江八幡市	9	10	④⑤⑥	②③⑦⑪
2	草津市	4	41	④⑤	①②③⑤⑥⑦
3	栗東市	1	4	②③④⑤	①②⑥
4	甲賀市	8	39	④⑥	①③④⑥⑫⑬
5	湖南市	4	13	④⑤⑥	①②③⑤⑥⑦⑪⑬
6	高島市	13	35	④⑤⑥	①⑫⑬
7	日野町	5	36	②⑤⑥	③⑦⑬
8	竜王町	2	6	⑤⑥	②③⑤⑪⑬

※1 ①乳幼児健診 ②就学時健診、③入学説明会 ④保護者会、参観日 ⑤PTA研修会等 ⑥単独開催

※2 ①発達段階の特徴や親の心得 ②保護者同士の交流や子育てに関する意見交換会 ③生活習慣、食育 ④遊び、運動
 ⑤仕事と家庭の両立や親子のコミュニケーション ⑥道徳心・思いやり、命の大切さなど心の育成 ⑦インターネットや携帯電話等 ⑧お小遣い・消費生活
 ⑨いじめ、不登校、非行、問題行動の対応 ⑩虐待 ⑪子育て・家庭教育への男女共同参画 ⑫乳幼児とふれあい ⑬その他

平成30年度事業計画書等より

近江八幡市における家庭教育支援の取組

■家庭教育を取り巻く現状

本市にも、三世代以上が同居している家庭、核家族家庭、単親家庭など様々な家庭がある。その中で地域に根ざした生活をしている家庭もあれば、周りとの関係性が少なかったり、孤立傾向にあつたりする家庭も少なくない。そして、経済的に厳しい家庭や、就労形態が子育てのしにくさにつながる家庭、子どもとの関わり方に困難を感じている家庭、子どもの特性を親だけで抱え込み、しんどい思いをしている家庭も存在する。また、「～してはいけない。」と感じる環境の中で、子育てのしにくさを感じている親もいるようである。そのような中、不安や悩みを抱えたまま子どもと向き合う保護者もみられる。保護者自身が抱える課題も多岐にわたり、関係機関との連携が不可欠となる深刻な場合も少なくないが、誰かが少し寄り添い話を聞くことで不安や悩みを軽減できる場合がある。

■家庭教育支援で目指す姿（課題解決のために・・・）

小学校、地域での子どもや保護者の様子を共有した家庭支援チームが、気軽に相談や話を聞く場をつくり、保護者の支援の一助となるようにする。それにより、家族や地域で生きにくさを感じている保護者の不安や課題を軽減できるようにする。そのことをとおして、
安定した子育てにつながるようにする。

■本年度の活動

（1）市内9小学校における家庭支援チームによる活動の展開

- ・定期的な支援チームでの情報共有会議
- ・保護者対象の子育てに関する講座の実施
- ・各学期の参観行事や懇談会時におしゃべりサロンの実施

（2）市子育てサロンの実施と家庭支援員の交流

- ・各学期1回ずつ、市内小学校および5歳児の保護者対象の子育てサロンの実施（1・2学期は小学校対象、3学期は5歳児の保護者と小学校一部学年対象）、終了後のふり返りと、小学校等への概要報告



【1学期市子育てサロン】



【終了後のふり返り】

■本年度の成果

- ・9小学校で実施し、共に活動する機会ができ支援員同士の交流が各校での活動に生かされている。
- ・市子育てサロンを実施していく中で、回を重ねるごとにサロンの運営もスムーズになり、様々な悩みを聞くことができた。また小学校区を越えて同じ悩みを抱える親同士をつなぐこともできた。
- ・各小学校における家庭支援チームの取組も少ない時間の中で少しづつ工夫が見られる。

■今後の課題

- ・市子育てサロンの周知方法と表面化した保護者の悩みの解決に向けた取組の展開の仕方。
- ・家庭支援員の未配置校への働きかけと家庭支援員のサポートや学校との関係性のつくり方。
- ・家庭支援員との関係を持ってほしい家庭へのアプローチの方法。
- ・本事業と市の他課事業との連携や位置づけをどのようにしていくか。

小学校は家庭教育支援のプラットホーム

近江八幡市	
活動内容	
■ 地域人材の養成	
■ 家庭教育支援チームの設置・活動	
■ 学習講座・行事の実施	
■ 連絡会議・ケース会議の設置、運営	
■ 保護者に対する情報提供	
講座数（年間活動日数）	51 講座（51 日）

家庭教育支援チーム数	(9) チーム
家庭教育支援員数	(9) 人
子育てサポーター等	(12) 人
実施開始年度 (H21 年度)	実施学校区数 (9 小学校区)

■ 活動の具体的な内容

○地域人材の養成

家庭教育支援員の資質向上や情報交換のため、県主催研修会の案内や、市子育てサロンの場を研修の一つとして考えている。

○家庭教育支援チームの設置・活動

各小学校に、校長、教頭、教育相談担当、生活指導担当、主任児童委員、家庭教育支援員等を構成員とする家庭教育支援チームを設置し、学校からの指示や助言を得ながら情報を共有し、家庭教育支援活動を行えるよう努めている。また各学校の状況に応じた活動を行っている。

○学習講座・行事の実施

家庭教育支援員が、家庭教育支援チームの一員として学校と密に連携しながら、各小学校で保護者の交流の場や教育講演会、各種行事などを行っている。市教委は、支援員対象の研修会や会議等を開催している。

○連絡会議・ケース会議の設置、運営

月1回程度、家庭教育支援チーム連絡会をもち、チーム内あるいは地域と情報を共有し保護者への対応や日々の児童理解や支援・指導に生かしている。より深刻なケースは、各機関と連携し、訪問教育相談員やSCの教育相談、福祉のケース検討会等へつなげることもある。コミュニティセンターや民生委員等とも連携し、児童の家庭状況等の把握と見守りネットワークづくりに努めているチームもある。

○保護者に対する情報提供

講演会の案内や開催する講座に沿ったテーマの情報提供や、家庭教育支援員が受けた講演内容の提供をしている。子育てサロンなどの案内も隨時行っている。



【親子活動「親子おにぎりづくり】

■ 特徴的な活動内容

○保護者と家庭教育支援員等が子育てについて気軽に話せる座談会（ほっこりカフェ）

○子育てコーディネーターや家庭教育相談員を招いた子育てサロン

○保護者対象のテーマを設けた講演会や学習会

○親子活動としての料理教室や、ものづくり教室、映画鑑賞会、学習会

○親子、地域、学校が連携した行事

○各校の家庭教育支援員と、市職員の企画による「市子育てサロン」の実施。



【子育て講演会】

■ 実施に当たっての工夫

○保護者が多く参加する行事で、本事業のPRをするようにした。

○家庭教育支援員と学校の窓口を1本化することで、学校内の連携をスムーズにした。

○事業のネーミング、堅苦しくならない環境、実施曜日や時間帯の設定を工夫した。

○親子で一緒にできる活動を取り入れるようにした。

○家庭教育支援員、SSW、学校の職員、相談員など、それぞれの内容で相談がしやすい環境を設定した。

○出向きやすいように、地域のコミュニティセンターや子どもセンターを利用した。

○子どもの小学校区では参加しにくかったり、家庭教育支援員の配置が無い小学校の保護者も対象にしたりするため市全体の保護者対象に「市子育てサロン」の開催をした。（年3回）

■ 事業の成果

○地域をよく知る家庭教育支援員や、子育てサポーターのかかわりで、保護者の状況に合わせた支援ができた。

○コミュニティセンターをはじめ地域の方の参加もできる講座ができたところもある。

○保護者のサロンへの参加人数は少ないものの、相談や話し合いなどは充実してきている。

■ 事業実施上の課題

○家庭教育支援員チームが効果的に機能するためには、連絡調整がかなり必要である。

○サロンや子育て相談から次の段階への連携方法を考えいかなければいけない。

○このような事業に参加しにくい保護者への働きかけの方法を考えていく必要がある。

草津市における家庭教育支援の取組

■家庭教育を取り巻く現状

本市は、市制施行（昭和 29 年）より一貫して人口が増加し、子育て世帯や核家族、転入される子育て世帯も多数みられる。こうした中、家庭環境の変化や地域における人間関係の希薄化などから、子育てに悩む保護者も多く、家庭での子どものよりよい生活習慣を身につけるため、社会的ニーズにあった家庭教育支援を推進していく必要がある。

■家庭教育支援で目指す姿（課題解決のために・・・）

家庭教育の自主性を尊重しつつ、保護者に家庭教育の重要性を改めて認識してもらうため、広く情報提供を行うとともに、身近な地域において、すべての保護者が安心して家庭教育を行えるよう、学校や関係部局等と連携し、保護者への学習機会の提供を実施することにより家庭教育の推進を図る。

■本年度の活動

（1）家庭教育学習事業費補助金

家庭の教育力の向上のため、家庭教育に直接関わりのある市立幼稚園・こども園、小学校、中学校の各単位 P T A に対して、子どもたちを取り巻く現状や課題・解決方法、子育ての手法、保護者同士のつながりの中から生まれる学習等の家庭教育学習事業に対して、補助金を交付することで各単位 P T A における特色のある家庭教育学習事業を支援。

（2）家庭教育出前講座

家庭で子どもが心豊かに成長し、よりよい生活習慣を確立するため、各単位 P T A や地域住民と一緒に考える場として、市職員が出向いて実施する「家庭教育出前講座」を関係部局と連携して実施。

（3）家庭教育サポート事業

家庭教育に関する保護者向けの学習機会を提供することにより、家庭における教育力の向上を目指す取り組みを実施。学校と連携した保護者のニーズにあったテーマでの学習会の実施や、1歳6ヶ月の乳幼児健診の場を活用し、乳幼児期からの家庭読書の大切さについての啓発を図書館と連携して実施。

（4）家庭教育に関する情報発信

市広報誌において、家庭教育に関することをテーマに掲載し、家庭教育の大切さを啓発。また、家庭教育サポート事業実施時は、テーマにあったチラシや資料を配布することで情報発信を行う。

■本年度の成果

家庭教育サポート事業について、各小学校と連携し、保護者の集まる機会を利用して、家庭教育に関する講座を実施することにより、S N S の危険性や家読の大切さなどを啓発することができた。

また、福祉部局および図書館と連携した乳幼児健診の場を活用した家庭教育支援を実施したことにより、家庭教育に関心が薄い保護者への啓発に取り組むことができた。

■今後の課題

- ・家庭教育学習出前講座のメニューの見直しや活用促進
- ・家庭教育サポート事業のカリキュラムの充実
- ・家庭教育講座等に参加することが難しい保護者に対する学習機会の創出

草津市家庭教育サポート事業 ~コミュニケーションで育む家庭の力~

草津市	
活動内容	
□ 地域人材の養成	
□ 家庭教育支援チームの設置・活動	
■ 学習講座・行事の実施	
□ 連絡会議・ケース会議の設置、運営	
□ 保護者に対する情報提供	
講座数（年間活動日数）	6講座（41日）

家庭教育支援チーム数	(1) チーム
家庭教育支援員数	(0) 人
子育てサポーター等	(0) 人
実施開始年度	実施学校区数
(H26年度)	(7小学校区)

■ 活動の具体的な内容

○学習講座・行事の実施

家庭で子どもたちが基本的な生活習慣や善悪の判断をはじめとした生きる力の基本となる能力を身に付けるため、保護者向けの学習機会の提供や情報発信することにより、家庭の教育力の向上を図るとともに子どもとのコミュニケーションの大切さを啓発。
 ・各小学校と連携して、授業参観や学校行事等の保護者が集まる機会の前後に保護者のニーズにあった学習会を実施
 ・月に3回ある1歳6ヶ月の乳幼児健診の場を活用し、乳幼児期からの家庭読書の大切さを啓発する「絵本 de うちどくサポート広場」を実施

■ 特徴的な活動内容

○学校と連携した家庭教育サポート事業

<今年度実施したテーマ>

- ・図書館司書による講話「絵本の見かた楽しみかた」
- ・少年センター職員や滋賀県警によるインターネットトラブル防止に関する講演
- ・外部講師を招いた子どもの自尊感情に関する講座

「子どもの意欲を引き出すコツー怒るのに疲れたアナタへー」他



【インターネットトラブル防止講演】

○1歳6ヶ月の乳幼児健診の場を活用した家庭教育サポート事業

<絵本 de うちどくサポート広場>

- ・健診の待ち時間に読み聞かせの啓発DVDを上映
- ・たくさんの絵本を展示し、親子で絵本に触れてもらう
- ・月の最後の健診時には、図書館司書による読書相談を併せて実施
- ・乳幼児期からの家庭読書に関する啓発チラシを受診者全員に配布



【絵本 de うちどくサポート広場】

■ 実施に当たっての工夫

○学校と連携した家庭教育サポート事業においては、小学校との連携を強化し、保護者のニーズにあったテーマで学習会を実施できるよう調整。

○乳幼児健診の場を活用した家庭教育サポート事業においては、たくさんの絵本を展示することで子どもの関心を惹き、また、読書に関心の低い保護者に対しては、家読の案内チラシを配布し、口頭で説明を行った。

■ 事業の成果

○参加者アンケートでは、「もう一度、家にある絵本を子どもと一緒に開いてみようと思いました。(家庭読書)」や「親子のコミュニケーション、信頼関係が大切だと思いました。便利なこともあるけど、危険なこともいっぱいあるということを、スマホなどを持たせる前にしっかり伝えたいと思います。(情報モラル教室)」、「話を聞き、子どもの話をよく聞いてあげようと思いました。(自尊感情)」などの感想をいただき、どのテーマでも家庭でのコミュニケーションの大切さを啓発することができた。

■ 事業実施上の課題

○学校と連携した家庭教育サポート事業では、開始から5年が経過するため、同一の内容ばかりとならないように、講演のテーマや内容を更に充実させる必要がある。また、小学校の負担を軽減することにより、より多くの学習機会を提供できるよう、実施方法の見直しについて検討する必要がある。

栗東市における家庭教育支援の取組

■家庭教育を取り巻く現状

地域のつながりの希薄化に伴い、子どもとのコミュニケーションやしつけに戸惑いや行き詰まりを感じながら、一人で悩んでいる保護者は少なくない。当然校園に相談されることはあるものの、支援が必要な家庭があまりにも多く、十分には対応しきれないというのが現状である。

■家庭教育支援で目指す姿（課題解決のために・・・）

家庭と地域・学校をつなぎ、地域の身近な幼児園、小中学校等に情報提供や相談対応を専任で行う家庭教育支援員を配置することで、家庭での教育力を支え、基本的な生活習慣の定着を促進し、感謝の心や規範意識・道徳性の芽生えを育み、生涯にわたる「生きる力」の基礎を培うことを目指す。

■本年度の活動

（1）PTA教育講演会（人権研修会）での講演会

日時：平成30年11月20日（火） 会場：治田東小学校

「子どもとのコミュニケーションについて考えよう」をテーマに講演。30名の保護者が熱心に受講した。具体的な事例をもとに、子どもと接する時に家庭で大切にしたいことについて交流。終了後には、個別での相談も受けた。

（2）就学時健診での「子育て相談窓口」の開設

就学時健康診断では、子育てに悩んだ時には相談できる人や体制があるということを呼びかけ、「子育て相談窓口」を開設した。

（3）校内適応指導教室における支援・保護者相談

対象児童5名を中心に支援。送迎時に保護者に声をかけ、相談や助言を行った。その日の児童の様子や気になる言動を記入した日誌をもとに家庭教育について振り返ったり、学校とのつながりをつくったりした。

■本年度の成果

どんなところを家庭で育っていくのか、学校との連携はどのように図っていけばよいのか。家庭教育支援員が、じっくりと話を聞き、助言を行うことで、保護者は安心し、適切に子どもに関わることができた。また、学校と情報を共有することで子どもへの支援を効果的に行うことができた。

■今後の課題

家庭教育についての講演や相談会の回数をさらに増やし、たくさんの保護者に学んだり交流したりする機会を提供していく必要がある。参加につながる周知方法についても、検討していきたいところである。

家庭の教育力アップをめざして　～栗東市の家庭教育支援～

栗東市	
活動内容	
<input type="checkbox"/> 地域人材の養成	
<input type="checkbox"/> 家庭教育支援チームの設置・活動	
<input checked="" type="checkbox"/> 学習講座・行事の実施	
<input type="checkbox"/> 連絡会議・ケース会議の設置、運営	
<input checked="" type="checkbox"/> 保護者に対する情報提供	
講座数（年間活動日数）	4講座（現在29日）

家庭教育支援チーム数	(0) チーム
家庭教育支援員数	(1) 人
子育てサポーター等	(0) 人
実施開始年度 (H30年度)	実施学校区数 (1小学校区)

■ 活動の具体的内容

○学習講座・行事の実施

家庭教育支援員が、学校と密に連携しながら、小学校での研修会や保護者の交流の場、教育講演会などにおいて、子どもたちを取り巻く課題・解決法、子育て等について啓発した。

○保護者に対する情報提供

主に学校便りにおいて、家庭教育支援員の紹介をしたり、講演会の日程や内容について知らせたりした。また、子育てについて悩んだときは、いつでも相談することができるということをお便りや掲示により常時発信した。



【PTA教育講演会（人権研修会）】

■ 特徴的な活動内容

○就学時健診での「子育て相談窓口」の開設

就学時健康診断では、子育てに悩んだときには相談できる人や体制があるということを呼びかけ、「子育て相談窓口」を開設した。

○校内適応指導教室における支援・保護者相談

保護者による送迎時に、児童の様子をもとに、家庭教育について振り返ったり、学校とのつながりが円滑にできるための手立てについて助言したりした。

■ 実施に当たっての工夫

○PTA教育講演会（人権研修会）では、テーマを「子どものコミュニケーションについて考えましょう」というテーマで話され、保護者は具体的な子どもの姿から家庭で大切にしたいことについて学ぶことができた。講演や研修での様子については学校便りで広く知らせ、次回への参加を促した。

○就学時健康診断では、来年度就学を予定している保護者に向けて、学校生活をよりよく送るために、子育てに悩んだときには相談できる人や体制があるということを呼びかけ、「子育て相談窓口」を開設した。基本的な生活習慣を整えるなど、就学までの数ヶ月に家庭できることについて助言するなど、就学前からの支援を行った。

■ 事業の成果

○相談会では家庭教育支援員が、じっくりと話を聞き、助言を行うことで、保護者は安心し、適切に子どもに関わることができた。

○研修会や相談会を通じて、学校と情報を共有することで子どもへの支援を効果的に行うことができた。

■ 事業実施上の課題

○福祉部局との連携をどう深めていくかということが課題である。

○家庭教育についての講演や相談会の回数をさらに増やし、たくさんの保護者に学んだり交流したりする機会を提供していく必要がある。参加につながる周知方法についても、検討していきたいところである。

甲賀市における家庭教育支援の取組

■家庭教育を取り巻く現状

園や小学校に出向く子育て親育ち講座では毎回参加者から好評をいただいている。しかし講座と聞くと敬遠するのか、参加されない保護者も多い。そのため講座を参観と参観の間に組み込んだり、親子向けの内容にしたり各自で工夫している。

子どもとの向き合い方や自身の育児に悩む人は多いが、日々の忙しさから見つめなおす時間がなかなかないのではと感じる。

学童期以上の保護者が、身近で気軽に悩みや話を聞いてくれる場所が少ない。

■家庭教育支援で目指す姿（課題解決のために・・・）

家庭教育センター、ブックスタートセンターの育成・登録・活動により、地域の家庭教育支援の意識を高め、市と地域が協力して子育て世代のサポートができるようとする。

子どもにとって家庭が一番安心できる場所でいられるように家庭の軸である父親や母親（時には祖父母）に働きかけ、子どもが親から愛されていると感じ自尊感情を高めていける家庭教育支援を目指す。

■本年度の活動

- (1) ブックスタート事業(年間30回)
- (2) 園での読み聞かせ活動(月1回18園実施)
- (3) ブックスタートセンター養成講座(2講座1見学)
- (4) いきいき孫育て講座(3講座)
- (5) 子育て親育ち講座(園・小学校)(保幼14園実施予定)
(小学校5校実施予定)



【ブックスタートセンター養成講座】

■本年度の成果

ブックスタート事業は最初の対象児が今年9歳となる。保幼園でのアンケートでも「読み聞かせを始めるきっかけになった」「どのような絵本を選んだら良いかわからなかつたのでちょうど良かった」との意見が多く、今後もこの事業を続けてほしいとの質問では「ぜひ続けてほしい」が96%を超えていた。

「いきいき孫育て講座」の開催を毎年心待ちにしているという参加者もおられた。

■今後の課題

同じテーマでの開催が多く、保護者のさまざまな悩み解決や子育てサポートにつながるような新規テーマや講師の開拓が必要である。

講座開催の日時設定において、共働き家庭や働く祖父母世代が増加していることから、土日の開催を検討する必要がある。



【子育て親育ち講座(食育)】

“親力”アップをめざして～甲賀市の家庭教育支援～

甲賀市	
活動内容	
■ 地域人材の養成	
■ 家庭教育支援チームの設置・活動	
■ 学習講座・行事の実施	
□ 連絡会議・ケース会議の設置、運営	
□ 保護者に対する情報提供	
講座数（年間活動日数）	5講座（24日） ※ブックスタート関連事業は除く

家庭教育支援チーム数 家庭教育支援員数 子育てサポーター等	(1) チーム (1) 人 (ブックスタートサポーター40 家庭教育センター10、計50) 人
実施開始年度 (H23年度)	実施学校区数 (16小学校区)

■ 活動の具体的な内容

○地域人材の養成

ブックスタートサポーター養成講座(全3回うち1回実地見学)

園での読み聞かせ活動サポーター研修(年1回)

家庭教育サポーター研修(年1回)

○家庭教育支援チームの設置・活動

子育て支援センターでのサポート

○学習講座・行事の実施

いきいき孫育て講座(全3回連続講座)

子育て親育ち講座小学校(8校枠うち5校程実施予定)

子育て親育ち講座保幼園(27園枠うち14園実施済みまたは予定)

○連絡会議・ケース会議の設置、運営

ブックスタートサポーター会議(年1回)

園での読み聞かせ活動サポーター会議(年3回)

家庭教育サポーター会議(年3回)

○保護者に対する情報提供

「らっこだっこぎゅっと」チラシ発行(年間版)

ブックスタートでの配布物



【いきいき孫育て講座】



【ブックスタート事業】

■ 特徴的な活動内容

○いきいき孫育て講座(全3回)

それぞれの発達段階に応じた孫との接し方・親世代の援助の仕方について

資料やふれあい遊び・紙芝居や絵本を通して学ぶ。

○子育て親育ち講座

園の参観や学校での参観・授業で、親もしくは親子で一緒に家庭教育について学ぶ。

テーマは食育・命の大切・運動・ふれあい・絵本の読み聞かせの大切さなど。

■ 実施に当たっての工夫

○「いきいき孫育て講座」に毎年参加される方がおられるので、講師にその旨を伝え基本は押さえながらも新しい内容を入れてもうえるようにしたり、あるいは講師をかえ、異なる視点から講話ををしていただいている。

○「子育て親育ち講座」では園や小学校の要望に応じて講師を紹介しているが、昨年度の実績だけではなく新しい講師にも来ていただけるように情報収集している。

■ 事業の成果

○アンケートでは「子どもの(孫の)見方が変わった。失敗してもいいと伝えたい。」「自尊感情を育てるかかわり方がどんなに大切かわかった。」「今と昔の子育ての違いがわかって良かった。」「このような講座をもっとしてほしい。」などの感想だった。

講座終了後も講師に個別に質問や相談をされる方がおられた。(いきいき孫育て講座)

○どの講座も参加した保護者からはとても好評である。毎日の子育てを見つめなおす良いきっかけとなり、保護者自身も気持ちが軽くなれる方が多い。(子育て親育ち講座)

■ 事業実施上の課題

○開催場所や日の決定において、働いている祖父母世代からは土日にして欲しいとの要望があった。(いきいき孫育て講座)

○参加しにくい保護者への働きかけ。(子育て親育ち講座)

湖南市における家庭教育支援の取組

■家庭教育を取り巻く現状

核家族化や地域社会のつながりの希薄化等を背景として、子育ての悩みや不安を抱えたまま保護者が多忙で孤立してしまうなど、家庭教育が困難な現状がある。ひとり親家庭の増加や貧困など、家庭教育を行うことが困難な社会で、家庭環境が多様化し、子どもが学校生活に容易に適応できないといった状況を抱える家庭が増えている。

■家庭教育支援で目指す姿（課題解決のために・・・）

保護者自らが家庭教育の主体であるという意識を持つつ、地域をはじめとしたさまざまな人とのつながりの中で、一緒になって家庭教育を行っていく。連携・協働の関係により家庭教育支援に取り組むことで、家庭教育支援に関わる者の学びの深まりと成長を促す。孤立した子育てではなく、他の子育てを知り協働することで子育てに幅と広がりが生まれ、子どもの育ちを豊かにする。

■本年度の活動

(1) 家庭教育支援チームの設置・活動

①菩提寺小学校…チーム名「ほっとルーム」…チームによる支援

コーディネーター（支援員）1名 子育てサポーター2名

- ・不登校傾向や教室に入れない児童の保護者支援（平成12年～児童支援から実施）
- ・保護者等を対象に毎週水曜日13：00～15：00『苦っこはうす』で「ほっとサロン」を開設

②三雲小学校…「みくもっ子支援委員会」への位置付け 広義のチームによる支援

コーディネーター（支援員）2名…保護者の信頼を受け、家庭へ「訪問型支援」を実施

- ・不登校傾向児童や支援の必要な保護者とのつながりをつくる個別対応と、訪問型による保護者支援

③石部小学校…チーム名「さんぽ」…チームによる支援

コーディネーター（支援員）1名

- ・保護者の日頃の悩みを少しでも取り除けるような交流の場での支援
- ・保護者対象に毎月2～3日『石部小コミュニティ・ルーム』で子育てサロン「さんぽ」を開設

④菩提寺北小学校…チーム名「あすなろカフェ」…チームによる支援

コーディネーター（支援員）1名

- ・子育ての不安や日頃の悩みなどを気軽に話せる場での支援
- ・保護者対象に月3回10：00～12：00または午後13：00～15：00 『あすなろハウス』で「あすなろカフェ」を開設
- ・開設曜日、時間を固定しない
- ・学習参観日の開設

(2) 学習講座・行事等の実施 【子育て講演会の開催】

平成30年11月21日(水) 石部小学校 会場：石部小学校会議室

講演：「片付け講座」 講師：坂根 陽子 氏

平成30年11月29日(木) 菩提寺北小学校 会場：菩提寺北小学校会議室

講演：「親と子のかかわり方講座」 講師：福田 純子 氏、松下 裕子氏

■本年度の成果

- ・保護者等の子育ての不安や日頃の悩みを気軽に話せる場、保護者同士が趣味を広げ交流を深める場、市職員を招いて専門的に対応いただく場などを開設し、より有効な相談態勢を工夫できた。

■今後の課題

- ・今後も専門的な知識や技能、豊富な実践経験のある講師を招いて子育て支援につながる魅力ある講座等を企画し、多くの人に提供していきたい。また、新たな支援員の育成に努めていきたい。



【菩提寺北小：親と子のかかわり方講座】



【石部小：片付け講座】

保護者と子どもに寄り添い見守り続ける湖南市の家庭教育支援

湖南省

活動内容

- 地域人材の養成
- 家庭教育支援チームの設置・活動
- 学習講座・行事の実施
- 連絡会議・ケース会議の設置、運営
- 保護者に対する情報提供

講座数（年間活動日数） 4講座(16 ~50 日)

○家庭教育支援チームの設置・活動

＜菩提寺小学校＞ 毎週水曜日午後「ほっとサロン」の開設

■ 活動の具体的な内容

「ほっとルーム」のメンバーを中心に、子育てや親子間の悩みや心配事を一緒に考える居場所づくり、仲間作りの手助け、子どもの寄り添い支援の活動を行っている。

■ 特徴的な活動内容

活動拠点の『菩っこはうす』において、学校課業日の毎週水曜日の午後、主に保護者を対象に「ほっとサロン」を開設。支援員が学校と家庭をつなぐ役割も担っている。市保健師を招いて専門的に支援いただく日を設定した。

■ 実施に当たっての工夫

毎週水曜日の午後に「ほっとサロン」を開設しているため、保護者等が行きたい時にいつでも行ける場所になっている。支援員だけでなく以前から「寄り添い支援」で関わりのあつた方に子育てサポーターとしてサロンの運営を手伝ってもらい、寄り添う児童の様子を担任に伝え、家庭へと情報が行くようにしている。

■ 事業の成果

子どもが小学校を卒業しても、支援員に今の子どもの状況を話したり相談したりと、「ほっとサロン」を訪ねてくれることがあり、つながりが続いている。開催日に、下校途中の児童が『菩っこはうす』に立ち寄る東の間のふれあいは支援員と児童との交流も生まれている。

■ 事業実施上の課題

子育ての悩みを相談できる場としての「ほっとサロン」の認知度をさらに上げていきたい。また、新しい支援員の育成が必要である。

＜三雲小学校＞ 「訪問型家庭教育支援」の地道な継続

■ 活動の具体的な内容

「みくもっ子支援委員会」の中に位置づけた家庭教育支援。支援員が登下校の見守り、校内外での児童や保護者とのかかわりを長期にわたり継続。不登校傾向児童や支援の必要な保護者とのつながりをつくる個別対応と、訪問型による保護者支援を2名の支援員が活動を行っている。

■ 特徴的な活動内容

「子育て応援学習講座」を参観日に設定し、乳幼児が一緒でも参加できる態勢をつくり、この講座の開催により多くの保護者とかかわる活動ができるようにしている。

家庭教育支援チーム数	(4) チーム
家庭教育支援員数	(5) 人
子育てサポーター等	(2) 人
実施開始年度 (H24, 26, 27, 28) 年度	実施学校区数 (4 小学校区)

■ 実施に当たっての工夫

児童の支援にあたっては、学校、学童保育所、市子ども政策課、地域総合センターとの連携を図り、情報を共有することで支援体制を充実させている。

■ 事業の成果

地道な活動を継続してきた中で、保護者からの相談を受け、地域での放課後の居場所づくりを始めるなど、活動場所が校内から地域へと広がりつつある。

■ 事業実施上の課題

訪問型支援では信頼される支援者の確保と継続などが必要。



【市保健師を囲んで
シニア世代孫育について】

＜石部小学校＞月2～3回子育てサロン「さんぽ」の開設

■ 活動の概要

地域の協力を得て、保護者の悩みを少しでも取り除けるような交流の場、子育てサロン「さんぽ」を開設（石部小学校コミュニケーションルーム）。保護者へ子育て学習の機会を提供している。

■ 特徴的な活動内容

子育てサロン「さんぽ」の設置(毎月2～3回)

子育てサロンの案内を毎月作成し、発信。

『すきすき週間』子どもとの会話、スキンシップの奨励
家庭教育支援アンケートで保護者の思いやニーズの把握。

■ 実施に当たっての工夫

子育てサロン「さんぽ」は、保護者同士が趣味を広げ交流を深められる、誰もができる作業や活動を進めながら行う中で、温かい雰囲気づくりを心がけている。

＜菩提寺北小学校＞月3回「あすなろカフェ」の開設

■ 活動の具体的な内容

子育てに対する不安や日頃の悩みなど、お茶を飲みながら気軽に話せる場「あすなろカフェ」を開設。毎月曜日、時間を変動させたり、参観日に開設したりするなど誰でも訪問しやすいように工夫している。(会場：菩提寺北小『あすなろハウス』)

■ 特徴的な活動内容

年1回は家庭教育講座で講師を招いて参加型で開催。

■ 事業の成果

「あすなろカフェ」の認知度が少しづつ上がり、開設日以外にも、声をかけてくださり相談を伺う機会が増えた。入学前の保護者が訪ねてこられ悩みを相談されるケースも出てきた。

○学習講座・行事等の実施

■ 活動の概要

保護者等が子育て等について学ぶ機会を提供している。

■ 特徴的な活動内容(代表的な事例)

平成30年11月29日(木) 9:45～11:00

・場所：菩提寺北小学校会議室

・講師：親と子かかわり方教室インストラクター2名

子育て講演会「親と子のかかわり方教室」

高島市における家庭教育支援の取組

■家庭教育を取り巻く現状

核家族化により親が身近な人から子育てを学ぶ機会の減少や、地域での人とのつながりの希薄化、少子化など、家庭教育を支える環境が大きく変化している。核家族化や地域の人間関係の希薄化に伴って、子育て世代が気軽に相談できる相手が不足し、家庭教育力の低下が進行している。

■家庭教育支援で目指す姿（課題解決のために・・・）

子育てを終えた世代が子育て世代を支援する体制の構築と、地域全体で子育てをする基盤の構築により、保護者が安心し、ゆとりをもって家庭での子育てを行えるよう支援する。

また各種講座の開催により、日々変化する情報社会と子育ての関わりについて啓発し、現代の家庭教育で何が問題となり、どのような支援が求められているのか知る機会を提供する。

これにより、保護者と地域が子育てに対して、より高い問題意識を持ち続け、教育の原点として家庭が子どもの「生きる力」を育む場として機能することを目指す。

■本年度の活動

(1) 高島市家庭教育支援チーム「パラソル」

子どもの育ちを地域で見守り、保護者の相談相手となるべく、組織化された家庭教育支援チームの支援活動を推進している。月3回、子育てひろばを開催しており、子育てや家庭教育に関する相談対応、学習機会の提供など、定期的な活動を実施している。

(2) 共育学習会

親子を対象に、親と子の関わり合いの大切さや、子どもに何が必要なのかを考える等、親と子が共に育つための学習の機会を提供する。

(3) 子どもにどうかかわりあうか講座

市内の園・学校と連携し、公民館の出前講座として保護者を対象に実施している。その時期に大切にしたいことなど子どもの発達段階に応じたテーマについて、子育て学習の機会を提供している。

(4) 地域教育力向上講座

地域住民が子育て世代の直面する問題について知り、地域の中により多くの子育て支援者を養成すべく実施する。

■本年度の成果

家庭教育支援チーム「パラソル」では、外遊びや親子ヨガなどのイベントを開催し、家庭教育支援チームについて参加者に知ってもらうことができた。また、研修会などに参加することによりチーム員の能力向上に努めた。

子どもにどうかかわりあうか講座では地域の公民館と学校とが連携を図り、各学校が課題としている内容を講座とし、広く保護者に子どもとの関わり方について学ぶ機会とした。

■今後の課題

- ・家庭教育支援チームの体制強化
- ・共存する関係団体との協働体制

家庭と地域が一体となって、子どもの「生きる力」を育む場に

高島市	
活動内容	
■ 地域人材の養成	
■ 家庭教育支援チームの設置・活動	
■ 学習講座・行事の実施	
□ 連絡会議・ケース会議の設置、運営	
□ 保護者に対する情報提供	
講座数（年間活動日数）	20 講座（34 日）

家庭教育支援チーム数 家庭教育支援員数	(1) チーム (15) 人
実施開始年度 (H26 年度)	実施学校区数 (13 小学校区)

■ 活動の具体的な内容

○地域人材の養成

- ・地域教育力向上講座

地域住民が子育て世代の直面する問題について知り、地域の中により多くの子育て支援者を養成するべく実施する。

○家庭教育支援チームの設置・活動

- ・高島市家庭教育支援チーム「パラソル」

家庭教育に関する相談対応や、親子で参加する取組・講座等の学習機会の提供を行っている。また、相談会・座談会など開催し、家庭教育支援の拠点活動を行っている。

○学習講座・行事の実施

- ・子どもにどうかかわりあうか講座

市内小中学校及び幼稚園、保育園、こども園の保護者を対象に、発達段階に応じた子育てや家庭教育について学ぶ機会を提供する。

- ・共育学習会

親子を対象に親と子の関わり合いの大切さや、子どもに何が必要なのかを考えるなど親と子が共に育つための学習の機会を提供する。



【パラソルの活動様子】

■ 特徴的な活動内容

○家庭教育支援チームでは、毎月第1金曜日、第2水曜日、第4土曜日に「ひろばパラソル」と称する拠点活動を開催している。保護者の気軽な相談相手として、家庭教育支援チーム員が自身の経験から対応し、困難なケースは、福祉部局や専門機関につなぐこととしている。

○子どもにどうかかわりあうか講座では、地域の公民館と園・学校が連携して企画し、実施している。

■ 実施に当たっての工夫

○家庭教育支援チーム「パラソル」では、定期的にイベントを開催し、地域に「パラソル」の事を知ってもらえるよう努めた。



【子どもにどうかかわりあうか講座】

■ 事業の成果

○家庭教育支援チーム「パラソル」では、外遊びや親子ヨガなどのイベントを開催し、家庭教育支援チームについて参加者に知つてもらうことができた。また、研修会などの参加によってチーム員の資質向上に努めた。

○子どもにどうかかわり合うか講座では、PTA事業や授業参観に引き続いて開催するなど、普段は講演会等に参加されない方も参加ができ、その年代の子どもにどう関わっていくかの大切さを再確認する機会となった。

■ 事業実施上の課題

○家庭教育支援チームは、今後、子育て支援センターとの違いを出していく必要がある。

○福祉部局等の関係団体との連携を深めていくことが課題である。

日野町における家庭教育支援の取組

■家庭教育を取り巻く現状

少子化や核家族化、地域のつながりの希薄化などにより、子育てを助けてくれる人や子育ての悩みを気軽に相談できる人がいないため、育児不安を持つ親が増えている。また、生活習慣の乱れや経済的な困窮など家庭教育の支援を必要としている家庭もある。これから親になる世代や子育て中の親に対して、親としての力を高めてもらうため、家庭教育の情報や学習機会の提供、相談体制の充実などきめ細やかな家庭教育支援を行うことにより、地域全体で親子の学びや育ちを支えていく必要がある。

■家庭教育支援で目指す姿

子どもは地域の宝であり、地域で優しく見守られながら育っていくことが望まれている。「地域で子育て」という誰にでも分かりやすいメッセージを発信し、次代を担う子どもたちに地域全体で関わり育てるという意識を浸透させるとともに、学校・家庭・地域・行政の連携のもと多くの方が関わるなかで、子どもたちが地域の愛情を感じながら心豊かに成長することを目指している。



【親子ぶれすての様子】

■本年度の活動

(1) 家庭教育支援事業「親子ぶれすて」

毎月第4金曜日を基本に、子ども同士が遊びを通してふれあうと同時に、親が子育てについて話し合い、悩みを相談できる場所として開催。子育てサポーターの育成も図っている。

(2) 学習講座・行事の実施

- ・就学前学習講座…全小学校（5校）で年1回
- ・P T A等子育て学習会…保育園・幼稚園・小学校・中学校で開催（11講座）
- ・マイナス1歳からの子育て講座…2講座

(3) 地域人材の育成

- ・子育てサポーター養成講座…3講座



【親子ぶれすて：クリスマス会】

■本年度の成果

- ・親子ぶれすてには、毎回10～20組の親子が参加し、親同士の交流・情報交換の場となっており、子育てサポーターが相談に乗ることで問題の深刻化の抑止、予防につながっている。
- ・小学校やP T Aなどと連携して子育て学習会を行うことで、多くの保護者に参加してもらうことができた。

■今後の課題

- ・子育てサポーターなど子育て支援者の確保と育成が必要である。
- ・各種事業等への参加者が固定化され、参加者同志の交流は図れているが、初めて参加する親子が交流しにくい雰囲気もある。地域で親子が孤立することのないよう、見守り声かけが必要である。

“日野町のたから”を未来につなぐ 心豊かでたくましい人づくり

日野町	
活動内容	
■ 地域人材の養成	
□ 家庭教育支援チームの設置・活動	
■ 学習講座・行事の実施	
□ 連絡会議・ケース会議の設置、運営	
□ 保護者に対する情報提供	
講座数（年間活動日数）	21 講座（21 日）

家庭教育支援チーム数	(〇) チーム
家庭教育支援員数	(〇) 人
子育てサポーター等	(13) 人
実施開始年度	実施学校区数
(H22 年度)	(5 小学校区)

■活動の具体的内容

就学前学習講座（5講座）、PTA等子育て学習会（11講座）、マイナス1歳からの子育て講座（2講座）を実施している。また地域人材の養成として、子育て支援チーム会議（6回）、子育てサポーター会議（5回）を実施し、府内の関係者と地域の子育て支援関係者が連携して人材発掘の情報交流の機会をもっている。さらに子育て支援の輪を広げるために子育てサポーター養成講座（3回）を平成31年2～3月に予定している。

■特徴的な活動内容

家庭での教育力の向上を目的に、幼稚園や小学校など保護者が集まる機会（授業参観、1日入学など）に、家庭での子どもとの関わり方、子育てで大切にしたいことなど、子育てや家庭教育について学ぶ場を提供している。また、命の宿ったマイナス1歳（胎内）からの子どもの成長、発達について学び「子育ては楽しくかけがえのないもの！」と思えるパパ・ママを目指し子育て講座を開催した。



【就学前学習講座】

■実施に当たっての工夫

子育て応援通信「ゆっくりおおきくなれ」（毎月1日発行）を府内の子育て関係課（日野町子育て支援チーム）が連携して発行している。町内の子育てサロン事業や親子でつどえる行事などの情報のほか、保健師や図書館司書、臨床心理士から子育てに役立つ豆知識、時期や季節に合わせた内容になるように工夫したり、行事予定をカレンダー化したりすることによって各種のイベントや学習会に参加しやすい情報提供となるように心がけている。

また、「マイナス1歳からの子育て講座」では、父親にもたくさん参加してもらえるように、開催日を土・日曜日に設定している。

■事業の成果

○就学前学習講座

小学校入学という節目を迎える時期にあたり、1日入学などの機会を捉え、この時期に大切にしたい子育てのことやこれから の子どもとの関わり方について学ぶ機会としている。保護者からは「この時期に聞いて良かった」「子どもの気持ちを理解することや子どもへの寄り添い方が勉強になった」など概ね高評価を得ている。

○PTA等子育て学習会

実施単位をPTAにすることで、校園によって違う子育ての課題について理解を深める機会となっている。また、保育所の保護者会も対象とし、より多くの方に学習機会を提供することができた。

○マイナス1歳からの子育て講座

父親の子育て参加が母親の負担を和らげ、子どもに关心をもてる気持ちの余裕やそれが子どもにとっても健やかな育ちにつながるなど、父親の育児参加促進には大きな効果が望める。

■事業実施上の課題

○各種学習会

地域によって参加率に差があり、今後も参加者が増えるよう呼びかけを工夫していきたい。また、保育所や幼稚園に就園せず、在宅で子育てをしている親子へ、どのように学習機会を提供するかが課題となっている。

○子育てサポーターの育成

ここ数年子育てサポーターの増員が進まず、固定化されたメンバーとなっている。養成講座は受講されるもののサポーターとして登録・活動されるに至らない場合もあり、より多くの方に受講してもらうことはもちろん、受講後のサポーター育成にも力を注いでいく必要がある。

竜王町における家庭教育支援の取組

■家庭教育を取り巻く現状

近年の様々な社会情勢の変化は、子どもや子育て世代の家庭を取り巻く環境に大きな影響をもたらしている。特に、いじめや不登校に対する対策や急速な情報化社会への対応、家庭や地域の教育力低下に対する対応は喫緊の課題となっている。PTA会員を中心とした住民が地域の絆を深め、子どもや子育て世代の家庭を取り巻く様々な課題の解決につながる活動および啓発を推進する。

■家庭教育支援で目指す姿

未来を担う子どもたちを健やかに育むためには、学校・家庭・地域住民等がそれぞれの役割と責任を自覚しつつ、地域全体で子どもたちを育む体制づくりを目指す必要がある。

そのため、学校・家庭・地域が連携協力し、学習や相談機会を提供することを通じて、子育てについての悩みを共感するだけでなく、同じ子育てをする仲間として互いに支えあえるような保護者同士の関係づくりを支援する。

併せて、子どもたちの夢と希望を育むため、幼小中の子どもを持つ保護者同士の連携を深め、家庭と地域の教育力を高めるとともに、子どもたちの「生きる力」の向上に努める。

■本年度の活動

- | | |
|-------------|------------------------|
| ・ 随時 | 運営委員会の開催 |
| ・ 随時 | 講師等との事前打合せ会議（意見交換会）の開催 |
| ・ 随時 | 案内チラシの作成と広報啓発活動の実施 |
| ・ 10月28日（日） | 竜王町教育フォーラム 2018 |
| ・ 3月中旬 | 次年度事業内容の検討会の開催 |

■本年度の成果

○本事業での地域と学校の連携・協働について

- ・「竜王の未来を拓く心豊かでたくましい人づくり～高めよう家庭や地域の教育力～」をテーマに開催した町全域を対象とした教育フォーラムでは、インターネットや電子機器の便利さに潜む危険やSNSを起因とした事件について学び、適正な利用の大切さについて知る機会となった。
- ・学校園単位で講座・行事等を開催することにより、同じ悩みを抱えている保護者同士の関係づくりやこれから子育てに生かしていただくための支援をすることができた。

○地域・民間企業・団体等の外部人材の協力・参画や、地域の豊かな資源を活用することについて

- ・民間企業の代表に事例や操作方法を交えわかりやすく御講演をいただき、保護者からは改めて親子で考えないといけない等の感想をいただいた。
- ・お弁当作り講習会では、おかず作りだけでなく、子育てについてのアドバイスや愛情ある接し方等、講師の方々の経験を踏まえて話ををしていただき、和やかな雰囲気の中で講習会を開催することができた。

■今後の課題

- ・講座・行事等の参加者がまだ少ないで、事前に前年度の様子を知らせる等、関心を持ち参加につながる周知方法を工夫していくことが必要である。
- ・ニーズの把握、ニーズに対応した地域人材や外部団体等への依頼の仕方、関わり方が難しい。

各家庭における教育・規則正しい生活習慣を

竜王町	
活動内容	
□ 地域人材の養成	
□ 家庭教育支援チームの設置・活動	
■ 学習講座・行事の実施	
□ 連絡会議・ケース会議の設置、運営	
□ 保護者に対する情報提供	
講座数（年間活動日数）	6 講座（ 6 日 ）

家庭教育支援チーム数	(〇) チーム
家庭教育支援員数	(〇) 人
子育てサポーター等	(〇) 人
実施開始年度 (平成 22 年度)	実施学校区数（2 小学校区）

■ 活動の具体的な内容

○学習講座・行事の実施

○家庭教育支援研修会 各学校園において子どもたちの夢や希望を育て、親子が共に育つための研修会を開催する。

○教育フォーラム 町内 P T A を中心とした住民と一緒に研修会を開催することで互いの情報交換を行い、地域・関係団体との連携を深め、地域の教育力を醸成させる。

■ 特徴的な活動内容

【竜王幼稚園】

○お弁当作り講習会

9月6日（木）の午前に開催。対象者は3歳児の保護者。3歳児のお弁当開始に伴い、子どもたちへの「食」に対する関心を持ってもらうための「子どもの喜ぶお弁当」、「簡単に作れておいしいおかず」、「野菜を使ったメニュー」などを習得し、親のお弁当作りへの関心、無理なくお弁当作りに取り組める機会を提供するとともに、食をとおしての子育て支援を実施した。



【お弁当作り講習会】

【竜王町P T A連絡協議会・竜王町社会教育委員会議・竜王町教育委員会】

○竜王町教育フォーラム 2018

10月28日（日）午後に開催。対象者はP T A関係者、社会教育関係者、地域住民等。「竜王の未来を拓く心豊かでたくましい人づくり～高めよう家庭や地域の教育力～」のテーマに基づき、「今までいいの？ネット社会の中の私たち」と題して、N I T情報技術推進ネットワーク株式会社、代表取締役の篠原嘉一氏にインターネットや電子機器の便利さに潜む危険やS N Sを起因とした事件について御講演をいただき、参加者がスマートフォン等の適切な利用の大切さについて学ぶ機会となった。また、教育委員会事務局学校教育課から全国学力・学習状況調査の結果から見えてくる竜王町の子どもたちの課題についての報告と学力向上のためには学校教育だけでなく、各家庭における教育、規則正しい生活習慣の大切さについて話を行った。



【教育フォーラム 2018】

■ 事業の成果

○メニューのアイデアや料理のコツ、栄養の話、調味料・肉類・野菜の特徴・調理の仕方、子育てについてのアドバイス、お母さんだからこそできる愛情ある接し方等、講師の方々の経験を踏まえて話をさせていただき、おかず作りだけでなく、和やかな雰囲気の中で楽しみながら進めることができた。また、実際にお弁当に詰めたり、みんなで楽しく試食したりすることができた。

○お弁当作りを負担に感じたり、子どもの好き嫌い等で困ったりする保護者が増えているように感じるが、講習会に参加した保護者からは、お弁当作りに前向きな気持ちがもてるようになった様子が見受けられた。

○最新のインターネット、スマートフォン等の電子機器に関して学ぶ有意義な機会となり、保護者からは、「我が家の子どもたちが使うアプリの話もあり改めて使い方と一緒に考えていきたい。」「S N Sは便利だが使用方法を適正に考えないと大変怖いものだと思った。」「親だけでなく高齢者も基本的な使い方・アプリ・危険について学ばなければならない。」というような感想をたくさんいただいた。各家庭や学校の問題と捉えるのではなく、学校・P T A・家庭・地域が一緒になって子どもたちを育てるまちづくりを今後も推進していきたい。

■ 事業実施上の課題

○講習会後に参加者の感想や実施したメニューを伝えている。有意義で楽しめる講習会であり、いろいろと学んだことを子育てに生かせる場であることをよりわかりやすく伝えていくことで、参加しなかった保護者にも関心を持ってもらえるのではないか。事前に前年度の様子を知らせる等、関心を持ち参加につながる周知方法を工夫していくことが必要である。